



日本住を快適空間!

DAN ネット通信

2014.Spring vol.84

発行：株式会社ダンネット 〒070-8045 北海道旭川市忠和5条4丁目9-17 TEL(0166)61-9151・FAX(0166)61-2044

今月のトピックス

『^{だんぺき}DAN壁 Ver.100』が登場

（株）ダンネットでは、高耐久でオンリーワンの湿式外装仕上げと高断熱化を同時に実現できる外断熱外装材「DAN壁」（だんぺき）に、100mm厚の「DAN壁 Ver.100」を新たに追加しました。2月に札幌市内で行った商品・採用モニター募集の説明会では、参加された多くの住宅事業者様に興味を持って頂いたことがアンケート結果からわかり、今後、住宅の高断熱化に大きな役割を果たすことが期待されます。

現場からのニーズに応える

これまで「DAN壁」は、主に北海道内での付加断熱を想定した50mm厚品と、本州での次世代省エネ基準クリアを想定した70mm厚品を標準規格品として販売していましたが、昨年からの新築・リフォームとも100mm厚品を要望する声が増加。それらのニーズに応えるため、新たに100mm厚の「DAN壁 Ver.100」品を標準規格品として販売開始しました。設計価格は1万5400円（3×6尺、税別）。

低炭素住宅に推奨

2月に札幌で行われた説明会では、住宅ローン減税などで一般の住宅より優遇される認定低炭素住宅への採用を推奨。当社特販部・大野則幸次長が、100mm充填断熱の外壁を「DAN壁 Ver.100」で付加断熱し、天井断熱をアクリアブロー400mm、基礎断熱を型枠兼用断熱材のかん

たんベース（EPS65mm+65mm）で施工すれば、暖房・給湯の熱源に一般的な灯油ボイラーを採用しても認定基準をクリアできると説明。高価な高効率設備を使わなくても、施工を省力化しつつオリジナルな外装デザインの認定低炭素住宅が提案できることを強調しました。

12年で採用コスト回収も

また、改正省エネ基準（H25年基準）に適合する住宅の外装材を、窯業系サイディングから「DAN壁 Ver.100」に変更して認定低炭素住宅とする場合、コストアップは断熱性能向上による光熱費の削減により、12年ほどで回収できる試算結果も示しました。

このほか、説明会では（有）本間技建（北海道釧路市、本間敬社長）の本間羊一氏による釧路初の認定低炭素住宅の施工事例（2・3面参照）なども紹介され、「DAN壁」を採用するメリットが改めてクローズアップされました。



「DAN壁 Ver.100」で付加断熱した外壁のサンプル

低炭素住宅+『DAN壁』で差別化

～(有)本間技建(北海道釧路市)～

国がゼロ・エネルギー住宅への誘導を目的として制度化した認定低炭素住宅。この新しい住宅に「DAN壁」を標準採用する地場工務店・(有)本間技建(北海道釧路市、本間敬社長)が積極的に取り組んでいます。今年1月に釧路市内で初めてとなる認定低炭素住宅を完成させ、今月には2棟目の認定物件が着工する予定。低炭素住宅+『DAN壁』で他社との差別化を進める同社の家づくりを紹介します。

15万円の追加コストで減税などの恩恵

本間技建は、本間社長夫妻と息子である羊一さんの3人で仕事をこなしている地場工務店。かつては増改築が中心でしたが、4年前、洋風の外観に合う塗り壁材を探していた時に『DAN壁』と出会い、初採用しました。

その新築住宅で、冬暖かく暖房費がかからないこと、そして高耐久な外装でクラックに強いことなどを実感。冬の寒さが厳しく、地震も多い釧路の住宅には最適でした。それ以来、完成見学会で『DAN壁』採用による快適性や省エネ性、高耐久性を来場者にアピールすることで、次の新築の

受注を確保できるようになり、現在は年間4棟のペースで新築住宅を建てています。

今回、低炭素住宅に取り組んだのは、税制優遇がある長期優良住宅で新築して節税したいというオーナーからの要望がきっかけだったそうです。

ただ、同社で長期優良住宅の認定基準をクリアするためのコストアップ費用を試算したところ、性能表示の耐震等級2や劣化対策等級3への対応、構造計算などの外注費用などで120～130万円程度かかり、プラン面でも大きな吹抜けを取りにくくなるほか、申請に必要な書類作成の手間も膨大になるといったデメリットがありました。

そこでオーナーと話し合っって低炭素住宅での新



本間技建・本間敬社長(右)と本間羊一さん(左)



今年1月に完成した釧路市内初の認定低炭素住宅

築を検討。固定資産税の減免期間は長期優良住宅のほうが2年間長いものの、住宅ローン減税の最大控除額拡充や、当初10年間の金利が優遇されるフラット35Sの適用といったメリットは変わらず、低炭素住宅の認定基準も標準仕様でクリアできます。そのためコストアップは、外皮平均熱貫流率(U_A値)と一次エネルギー消費量の計算の外注費用など15万円ほどで済むことから、低炭素住宅で建設することが決まりました。

標準仕様で認定基準をクリア

釧路で低炭素住宅の認定を受けるためには、U_A値を改正省エネ基準(H25年基準)と同じ0.46W以下、一次エネルギー消費量を同基準比10%減としたうえで、8項目ある低炭素化措置のうち2つ以上に適合することが条件になります。

このうちU_A値は標準仕様でクリアしており、断熱仕様は外壁がアクリア(高性能グラスウール16K)100mm充てん+『DAN壁』50mm外付加、基礎が押出ポリスチレンフォームB3種外側60mm+内側60mm、天井がアクリアブロー300mm、窓がPVCサッシ・アルゴンガス入りLow-Eペアガラス。一次エネルギー消費量は暖房・給湯にガス高効率ボイラーのエコジョーズを採用することでクリアしました。暖房方式は温水パネル式のセントラルヒーティングです。

低炭素化措置は、8項目のうち木造による建設と“節水型機器を一定数以上採用”に該当。従来から木造在来工法で施工しており、節水型機器も現在は水回り設備にほぼ標準で備わっているため、U_A値と一次エネルギー消費量への対応も含めて、標準仕様からの変更点はありませんでした。

普及途上の今こそ建てる価値あり

1月の完成見学会では2日間で約40組が来場。ただ、『DAN壁』を採用したダブル断熱やオールガス仕様は関心が高かったものの、低炭素住宅についてはまだ制度化されてから1年程度しか経っていないため、まだ普及途上であることを実感したそうです。

しかし、まだ取り組む会社がほとんどいない今こそ、他社との差別化の一環として低炭素住宅を建てる価値がありそう。

同社の本間羊一さんは「低炭素住宅に対するお客様の関心を高めるには、実際に低炭素住宅を建てた方が口コミで広まるか、私たちから積極的に建設を勧めることが必要になりそうですが、15万円は無理のない金額だと思うので、今後も『DAN壁』採用の低炭素住宅をイチ押ししていきたいですね。認定にかかるコストや設計の自由度などを考えれば、長期優良住宅よりもメリットは大きいと思います」と話しています。

低炭素住宅と長期優良住宅の比較

		一般住宅	認定低炭素住宅	認定長期優良住宅
条件	建築外皮	—	省エネ新基準	省エネ対策等級4
	省エネ	—	省エネ新基準比10%以上削減	なし
	一次エネ消費量	—	8項目から2つ以上適合	なし
省エネ以外の規定	—	なし	劣化対策等級3・耐震等級2・維持管理対策等級3など	
フラット35S	なし	フラット35S金利Aタイプ	フラット35S金利Aタイプ	
補助金	なし	なし	地域型住宅ブランド化事業(最大100万円/戸)	
優遇措置	所得税(ローン減税最大控除額)	400万円	500万円	500万円
	所得税(投資型減税)	なし	最大65万円	最大65万円
	登録免許税(税率軽減)	①保存登記0.15% ②移転登記0.30%	①保存登記0.1% ②移転登記0.1%	①保存登記0.1% ②移転登記0.2%
	不動産取得税	1200万円控除	1200万円控除	1300万円控除
	固定資産税	3年間1/2	3年間1/2	5年間1/2
容積率	なし	緩和規定あり	なし	

同じ条件 同じ条件

※2014年4月1日以降に消費税8%で住宅を取得し入居した場合



完成見学会のチラシ。ダブル断熱やオールガスも関心と呼んだ



室内はエイジング風に塗装した柱や造作収納がアンティークな雰囲気を感じさせる



床暖房を採用する時の 設定温度と注意点は？

Q…このところ、お客様から床暖房を入れたいという要望が増えてきました。快適性や健康性を考えた場合、どのよ

うな点に注意しておくべきでしょうか？

A…床暖房は床面からの放射熱によって部屋全体を温める暖房方式ですが、設定温度はどの程度にすればいいのか、床からの放射熱だけで窓のダウンドラフト（冷気流）を抑えられるのか、低温やけどの心配はないかといったことなどを不安視する住宅会社さんも少なくないようです。

これらの点について、住宅専門紙・北海道住宅新聞では専門家に質問し、回答をまとめた記事を掲載しています。

その内容を紹介すると、まず床面温度は国際標準化機構（ISO）に規格（ISO7730）があり、床表面温度は19～26℃の間であること、床暖房は29℃として設計して良いことなどを定めています。ISOでは暖房方式にかかわらず、床面の



電気式床暖房の施工。床面温度は26℃が設計の目安になる

温度は26℃までにすべきと定められていますので、これが設計の目安になりそうです。

次に温度を上げた時の低温やけどの心配ですが、ISOの規格を超えて30℃程度になっても、低温やけどになる心配はほぼないとのこと。低温やけどが発生する条件としては、44℃で数時間接触した場合と記載されている資料が多いことなどを、その理由として挙げています。

そして暖房熱量についてですが、床暖房だけで暖かさが足りない時は、窓面のダウンドラフト防止を兼ねて、窓下にパネルラジエータを取り付けるのが正しいとしています。

●編●集●後●記●

♣おかげ様で「DAN 壁 Ver.100」は発表以来、多くのハウスメーカー様・工務店様に関心を持って頂きました。北海道・本州問わず、他社との差別化を図れる外断熱外装材だと自負していますので、ぜひ採用をご検討下さい。（野村）

♣本州では桜が見頃を過ぎたところも多いと思いますが、北海道ではようやく蕾が開いてきたところ。でも気温が10℃を超える日が続くようになり、北海道にも着工シーズンがやってきたことを実感しています。（水越）



株式会社DAN NETSU

ホームページURL <http://www.dan-netsu.co.jp/>
E-mailアドレス info@dan-netsu.co.jp

『快適な住まいづくり』はお任せ下さい！

- フローリング工事各種
- 外断熱工事
- 気密工事
- ウレタン吹付工事
- 断熱建材製造販売
- 住宅性能診断

■本 社	〒070-8045 旭川市忠和5条4丁目9-17	TEL(0166)61-9151 FAX(0166)61-2044
■旭川第一工場	〒071-1248 上川郡鷹栖町8線西2号	TEL(0166)87-4442 FAX(0166)87-4888
■旭川第二工場	〒070-0014 旭川市新星町514番地1	TEL(0166)21-7080 FAX(0166)21-7080
■札幌支店	〒003-0869 札幌市白石区川下2127番地4	TEL(011)875-3966 FAX(011)875-3971
■旭川支店	〒070-8045 旭川市忠和5条4丁目9-17	TEL(0166)62-7575 FAX(0166)61-1715
■帯広支店	〒080-2460 帯広市西20条北2丁目27-10	TEL(0155)41-4101 FAX(0155)41-4105
■釧路支店	〒088-0621 釧路郡釧路町桂木5丁目15	TEL(0154)36-1790 FAX(0154)36-1844
■北見支店	〒099-0878 北見市東相内町174番地16	TEL(0157)36-3557 FAX(0157)36-3433
■北関東支店	〒362-0047 埼玉県上尾市今泉1丁目27-4	TEL(048)783-1666 FAX(048)783-1667
■千葉支店	〒263-0003 千葉県千葉市稲毛区小深町116-1	TEL(043)308-5176 FAX(043)308-5178
■宇都宮支店	〒321-0932 栃木県宇都宮市平松本町362-6	TEL(028)636-1266 FAX(028)636-2675
■平塚支店	〒254-0018 神奈川県平塚市東真土4丁目2-69	TEL(0463)54-6484 FAX(0463)54-2430
■水戸支店	〒310-0841 茨城県水戸市酒門町字西割4312-3	TEL(029)248-6761 FAX(029)248-6762
■仙台事務所	〒983-0037 宮城県仙台市宮城野区平成2-18-38	TEL(090)1378-5494 FAX(048)783-1667
■DAN NETSU 信州	〒399-0034 長野県松本市野溝東1-17-1	TEL(0263)26-0811 FAX(0263)26-1016